（様式１）

大阪市立敷津小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

安心・安全な教育の推進

小規模の強みを生かし、普段から児童保護者と丁寧なコミュニケーションをとること、関係諸機関を含め情報共有を密にすること、適切な初期対応をすることで児童保護者との信頼関係の構築がすすみ、校内は一定の落ち着いた状況を保ってきた。教職員の姿勢が児童にも伝わり、年々増加傾向にある特性のある児童に対して優しく温かく接する児童も増えてきた。

８年度は全校児童数約 50 人となり、１・２年生、３・４年生、５・６年生で複式学級体制をとる。教科を学級担任以外の教員が受け持つ専科指導を拡張し、担任以外の教員も多くの児童と接することで、児童理解をすすめたい。

相手に寄り添う姿勢、適切な初期対応についてはこれまでの実践を継承し、より落ち着いた環境づくりをすべての学校生活の基盤とする。なお、校区内はホテルや高層マンションなどの建設が進み、多様な飲食店、交通量が多く、海外からの旅行者の往来も増加しており、安全面で注意が必要である。

未来を切り拓く学力・体力の向上

小規模校の弱みとして、教員との距離が近く「自分の力で何とかする」「自分で考える」時間が不足している。

家庭背景に課題を抱え、家庭学習・自学自習の習慣が定着していない児童が多く、基礎学力の定着は十分ではない。また、家庭で多様な芸術・文化に触れる体験の少ない児童が多い。

授業以外も含めたあらゆる学校生活の場面で、児童が「考え、活躍できる」機会、多様な芸術・文化に触れる機会を増やす必要がある。成功体験を増やし成就感を高めることで将来の夢や希望を持たせたい。

授業は「話を聞く」ことから取り組み、「わかる・楽しい・考える授業」の観点から改善をすすめ、基礎学力および自学自習の習慣の定着を目指した教材の工夫が必要である。

学びを支える教育環境の充実

学習者用端末の活用は順調に進んでいる。授業への効果的な活用は、引き続き研究授業などを通して研究を深めていく。

教員の時間外勤務時間は減少傾向であるが、保護者の状況から時間外の対応の大幅な減少は見込めない。

校務の見直し、行事内容の整理等は年度初めだけでなく、随時検討していくことが必要である。

学校教育目標　自ら考え、学び、未来を切りひらく力を持った　心豊かな子どもの育成
～仲間とつながり、力を合わせる子ども～

中期目標　R8～R11

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９５％以上にする。　（Ｒ７年度　９２．５％）

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。　（Ｒ７年度　８６．６％）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。　（Ｒ７年度　―％）

○小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９５％以上にする。　（Ｒ７年度　―％）

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９５％以上にする。

（Ｒ７年度　―％）

○時間外勤務時間について、月４５時間以上実施する教員をゼロにする。

（Ｒ７年度　２人）

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

〇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９３％以上にする。　（Ｒ７年度　９２．５％）

〇小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。　（Ｒ７年度　８６．６％）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。　（Ｒ７年度　―％）

〇小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。　（Ｒ７年度　―％）

【学びを支える教育環境の充実】

〇小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。　（Ｒ７年度　―％）

〇時間外勤務時間について、月４５時間以上実施する教員をゼロにする。
（Ｒ７年度　２人）

3　本年度の自己評価結果の総括

（様式２）

大阪市立敷津小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 学校の年度目標 〇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９３％以上にする。 〇小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８７％以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】 全教職員で児童の小さな変化も見逃さず共通理解を図る。場合によっては積極的に関係機関と連携を図る。 指標 毎月１回以上、(内容によっては随時)全教職員での児童の状況を把握する機会を持ち、全教職員で情報共有を行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
毎月１回以上、（内容によっては随時）全教職員で児童の状況を把握する機会を持ち、情報共有を行うことができている。必要に応じて、スクールカウンセラーを活用し児童の心身状態の早期発見、早期把握を行い、未然防止に努めている。また、区役所やこども相談センター、デイサービスなど関係諸機関と連携しながら、家庭支援も含めて組織的に対応を進めている。	

取組内容②【安全・安心な教育環境の実現】 学校の行き帰り、地域での防犯について児童に注意喚起するとともに朝、夕に見守り活動を行う。 指標 月２回以上、地域と連携した「子ども安全見守りの日」の活動を行う。 また、登下校時の注意点や交通ルール、長期休暇中の過ごし方などについて随時確認し、安心・安全への意識を高める。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
月２回、地域と連携し、安全見守り活動を行い、児童が安全に登下校できるように見守りを行っている。１２月には浪速警察による交通安全教室を実施する予定である。また、学級で登下校時や校外学習時での交通ルールについての指導の徹底、長期休業前には、生活指導主担者が長期休業期間中の安全な過ごし方についての講話を行う等、児童の安心・安全の意識を高めている。	

取組内容③【豊かな心の育成】 豊かな情操をはぐくみ、様々な文化に実際に触れることをねらいに芸術鑑賞行事を実施する。 指標 事後の児童アンケート調査で児童の満足度８０％以上にする。 （Ｒ７年度　９８％）	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
全校での芸術鑑賞は１１月に太鼓鑑賞を予定している。９月には、スクールオブミュージック専門学校の学生によるミュージカル鑑賞（６年生)、１０月には、ニッセイ劇場による劇鑑賞（４年生）を実施した。今後は、劇団四季によるミュージカル鑑賞（６年生）を予定している。 引き続き、多様な体験活動などを取り入れながら、児童の豊かな感性を育む取組を進めていく。	

取組内容④【豊かな心の育成】 たてわり班活動による児童主体の集会を活発化し、学年・学校行事でも児童が主体的に活躍できる場を設ける。 指標 月２回以上、児童会主体のたてわり班活動による集会を持つ。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
月２回、集会放送委員会が中心となり、たてわり班でゲームやクイズを行う集会を行っている。１学期には、たてわり班編成による全校遠足を実施した。今後は、全校児童で行う「なかよしドッジボール大会」を予定している。 異学年の関わりを通じて、高学年は、リーダーシップを発揮するなど協力的な姿勢が見られるようになってきている。児童の学級以外での多面的な姿を発見でき、称賛できる場が増えることにより、児童の自尊感情の育成の向上にもつながりつつある。	

取組内容⑤【豊かな心の育成】 １．帰りの会や道徳の時間など互いのよさを伝え合う機会を増やす。また、教職員間でも児童のよいところについて伝え合う機会を設ける。 ２．多様な価値観や文化を持つ子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える機会を設ける。	B
指標 １．各学級で週に１回以上、児童どうしがよいところを伝え合う時間をもつ。また、学年部会などで月に１回以上、児童のよさを伝え合う時間をもつ。 ２．年２回、敷津やさしさ week を設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
１．　道徳科の「個性の伸長」の授業では、児童が自分の長所や友だちのよいところに目を向けられるように進めてきた。児童は、自分の長所や友だちのよいところを見つけようとする中で、自分や友だちのよさに気づき、それぞれの個性を大切にしようとする姿が見られるようになってきている。 　また朝の会や帰りの会などで、友だちのよいところを見つけたり、スピーチで友だちにしてもらって嬉しかったことなどを伝えたりする姿が見られた。学年部会などでも児童のがんばりを共有し、日々の声かけや支援に生かしている。今後も児童が自分や友だちのよさに目を向けられるような取組を進めていく。 ２．１学期に「敷津やさしさ week」を実施した。（６月）普段からいいところみつけなどで、友だちのよいところを発表する機会を設けている。１週間取り組んできた「敷津やさしさ week」では、児童はさらに意識して友だちのよさをみつけようとする姿が見られた。自分のよさを友だちから言ってもらったり、友だちが嬉しそうにしている姿を見たりすることで、学級内で優しい雰囲気が広がってきた。 　２学期は１１月に実施する予定である。そこでは、その時にしてもらったことだけでなく、友だちの日頃のやさしさやがんばりにも気づくことができるように、具体的な行動を取り上げて、友だちのよさに気づけるようにしていく。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

（様式２）

大阪市立敷津小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 〇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。 〇小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】 　児童の現状、学習内容に合わせて、ペアやグループを活用し、児童どうしのつながりを大切にした授業を工夫して行う。	B
指標 　校内児童アンケート調査「友だちの考えや意見をじっくり聞いて、自分の考えや意見を深めたり広げたりすることができていますか。」の肯定的な回答の割合を８０％以上にする。　（Ｒ７年度　９３％）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
校内児童アンケートでは、肯定的な回答の割合が９０％であった。（５月実施） 　学校行事予定に「研究の日」を設定し、全教員で研究テーマ「傾聴」や教材研究の方法について、各教科の専門分野の講師を招聘し、協議を進めている。 　今後も、児童の実態や学習内容に応じてペアやグループでの活動を取り入れ、安心して自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりすることのできる授業の雰囲気づくりを大切にしていく。さらに、授業だけでなく、学校生活のさまざまな場面において、子どもたちがお互いの考えや思いを聞き、伝え合いながら学んでいく姿を大切にしていくために、単に「聞く」「話す」にとどまらず、友だちの考えを受けとめ、それをもとに自分の考えを深めたり広げたりすることができるよう、場の設定を工夫していく。	

取組内容②【誰一人取り残さない学力の向上】 　読解力の育成をめざし、活字に親しみ、読書習慣が身につくよう朝読書や読み聞かせ、図書室を活用した取り組みを毎週１回行う。	B
指標 　校内児童アンケート調査「本を読むことが楽しいですか」の肯定的な回答の割合を８０％以上にする。　（Ｒ７年度　９２％）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
校内児童アンケートでは、肯定的な回答の割合が９７％であった。（５月実施）図書委員会による昼休みの図書館開放や毎月１回の「よみきかせ」を実施するなど児童が読書に親しむ場を設定している。引き続き、図書司書と連携しながら、読書に親しむ機会を通して、読解力の向上を図っていく。	

取組内容③【健やかな体の育成】 　体育科の授業の充実や、休み時間にも積極的に運動場で活動するなど、意欲的に体力作りに取り組む。	B
指標 　年３回以上、全校で休み時間などを使い、体力向上の取り組みを実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
体育科の学習時には、多様な動きを複合的に取り入れたサーキットトレーニングや柔軟・体ほぐし運動を取り入れることで、筋力や持久力アップ、柔軟な体つくりの向上を図っている。休み時間では、運動場でおにごっこやボール遊びをしている児童や運動会（１１月７日実施予定）の全校ダンスに向けて意欲的に自主練習をしている児童の姿が多くみられるようになってきている。 　今後は、児童の体力アップ週間として全校児童でのドッジボール大会（１１月)、なわとび週間（１２月)、かけ足週間（１月）を予定している。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

（様式２）

大阪市立敷津小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 学校の年度目標 〇小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。 〇時間外勤務時間について、月４５時間以上実施する教員をゼロにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 児童のスマートフォン・学習者用端末等の利用ルールの必要性やインターネット上に潜む危険性など情報モラルについて、学期に１回以上取り組む。	B
指標 小学校学力経年調査「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意したりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
特別活動の時間を利用して、生活習慣への影響や犯罪被害の影響について指導したり、終業式等において、生活指導主担者からスマートフォンの適切な使い方や SNS の危険性についての講話を行ったりしている。また、今年度は学校でのタブレットの使い方や使用時間に関するルールを作成し、児童への意識付けを行った。さらに、浪速警察署から講師を招きスマートフォンや SNS の適切な利用について講習を実施した。2 月には、KDDI による「スマホ・ケータイ安全教室」を実施する予定である。 今後も、児童が情報を正しく安全に活用できるよう、発達段階に応じた情報モラル教育を継続して行っていく。	

取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 　教員が働きやすい環境を整備していくとともに、会議の精選や学校閉庁日の設定、セット時刻の徹底、休日出勤の振替取得など学校独自で抜本的な改革を進めていく。 指標 　時間外勤務時間について、月４５時間以上実施する教員をゼロにする。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・改善点	
時間外勤務時間について、月４５時間以上実施する教員は、７月時点ではゼロであり、達成できている。また、教員の１か月の平均時間外勤務時間（４月から９月）は、１３時間１８分であり、昨年度と比べ減少している。（Ｒ７年度：１６時間１９分） 　会議に関しては、情報共有や意思決定、課題解決など目的を明確にし、Teams や校務支援システム（SKIP 掲示板）を活用したり、説明時間を削減するため、資料を事前に配付したりすることにより、学年のミーティングや教材研究など本来の業務に集中する時間が増えている。学校閉庁日は夏季休業中に５日間設定した。また、電話応対終了時刻（１７：３０）やセット時刻（ゆとりの日は、１８：００、ゆとりの日以外は、１８：３０）の徹底、日曜参観による振替取得などにより、負担は軽減されつつある。また、テレワーク勤務についても積極的に進めている。 　引き続き、教員が相談しやすい職場環境を整備していくとともに、教員のウィルビーイングの向上を図っていく。それにより、教員の持続可能な働き方の実現へとつながり、子どもたちのよりよい教育の提供へとつながっていく。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点